

9価HPVワクチン接種につきて

子宮頸がんは主にヒトパピローマウイルス（HPV）に感染することで発症する病気です。日本では、年間約10,000人が子宮頸がんにかかり、毎年約2,800人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。

HPVは、性経験のある女性の50%以上が生涯で一度は感染するとされているありふれたウイルスです。子宮頸がんのほか、肛門がん、膣がんなどのがんや尖圭コンジローマ等多くの病気の発生に関わっています。HPVには200以上の型があり、そのうちの一部はがん発生と関わりがある高リスク型HPVと呼ばれます。

これまで日本では、HPVワクチンとして、2価（16、18型）および4価（6、11、16、18型）ワクチンが認可されていましたが、これは子宮頸がんの原因となるHPV型の60-70%に対するものです。現在海外で主流となっているのは、約90%に対応する9価（6、11、16、18、31、33、45、52、58型）ワクチンですが、この度日本でも認可発売されましたので、当院での取り扱いを開始します。

*接種には、インターネット上での登録が必須となります。受診される際は、スマートフォン、タブレット端末等をご持参いただき、Eメールアドレスをご用意ください。

*現在、定期接種の対象ではありません。定期接種は2価、4価ワクチンとなります。

*これまで2価、4価ワクチンで接種を開始している方が、途中から9価ワクチンへ変更することは出来ません。2価、4価ワクチンの接種を完了している方が9価ワクチンを接種することは可能ですが、海外のガイドラインでは推奨されていません。